

# 令和5年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だて)の授業に関して作成する。
  - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(理科)教科主任名 野田美鈴

★教科・観点について  
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	前半～9月			後半～1月		次年度に向けて まとめ	
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)		1次評価後の具体的な改善策
知識・技能	1年	○1学期平均達成率63.2%。基本用語は概ね理解できている。 ▲顕微鏡の使い方に課題がある。	毎授業、前授業の用語チェックを実施する。また、単元末には用語に関する小テストを実施する。顕微鏡の技能テストも行い、技能を定着させる。	1年			
	2年	○1学期平均達成率60.5%。基本用語や実験操作など概ね理解できている。 ▲用語や化学式の正確な理解や体系的理解に課題がある。	新しい単元に入る時に既習事項について確認する問題練習を実施する。また、単元末には基本用語に関する要点チェックの確認小テストを実施する。化学式、化学反応式については学年末考査の中で問題を出し、知識を定着させる。	2年			
	3年	○1学期平均達成率66.7%。基本用語や実験操作など概ね理解できている。 ▲実験の手順を何度も確認しスムーズに進まない班があった。	実験を進める作業を何ステップかに分け、少しずつ説明を行っていく。また、実験の説明をする際に実験器具の使い方の映像を見せることで、視覚的に理解させる。	3年			
思考・判断・表現	1年	○1学期平均達成率63.3%。考えを丁寧に書くという意識が薄い。ルールを守ろうとしている生徒が多い。 ▲計算が苦手な生徒が多い。ノートを書いた内容をかき写す子が数人いる。また、自分の考えを表現するのが苦手な子も多い。	スケッチを行う際は、決まりを復習してから実施する。自分の考えをまとめる時間を多くとる。個人→班→クラス→隣の班→個人という流れにし、周りの意見を聞いてから、もう一度自分の考えをまとめる時間をとる。	1年			
	2年	○1学期平均達成率51.4%。実験や実施には積極的に取り組む生徒が多い。実験記録のまとめや丁寧に取り組もうとする。授業の振り返りをノートに欠かさず記入する生徒が1年次増えた。 ▲実験結果をもとに自分の言葉で考察や結論を記述することが不得手である。	ワークシートの考察や課題に対する結論を記述する時にキーワードを示すなど論述方法について例示などのアドバイスを与える。結果をどのように考察に結びつける、具体的な方法について繰り返しアドバイス定期的に思考・判断・表現について問題を入れた小テストを実施する。	2年			
	3年	○1学期定期テストの達成率は57.0%であった。 ▲適切な思考や判断につながる知識の活用が課題であると考えられる。	既習事項を確認し、新しく習う内容とのつながりをしっかりと理解させる。	3年			
主体的に学習に取り組む態度	1年	○1学期の平均達成率66.4%。「植物の分類」部分の振り返りでは、わかったことを自分の言葉で具現化し、植物分野で今後学びたいことを記入している生徒が多かった。 ▲ノートの取り組みができていなかった。集中力が続かない生徒が各クラスに数名いる。	個別指導の機会を設け理科ノートに最低限記入すべき箇所や記入方法についてアドバイスする。また、作業する時間と話を聞く時間の切り替えを徹底して行う。	1年			
	2年	○1学期平均達成率61.9%。化学変化で熱の出入りする反応について、例をあげて調べる学習には熱心に取り組む生徒が多かった。 ▲クラスにより不規則発言が多くなる傾向がある。各クラス数名の生徒の認知能力に課題があり、授業について行くことが難しい。調べ学習では化学変化と状態変化の区別がつかない生徒が一定数いた。	個別指導の機会を設け理科ノートに最低限記入すべき箇所や記入方法についてアドバイスする。身の回りの化学変化の例について化学へ変化と状態変化の違いを例をあげて説明する機会を設ける。	2年			
	3年	○1学期平均達成率69.7%。授業で扱った内容を用いて考える課題を設定したり、各自で復習させた1、2年次の内容を定期試験に出題したりした。 ▲知識や思考力を活用することが得意な生徒、苦手な生徒で課題への取り組みへの意欲に差があった。	粘り強く取り組む姿勢を促す指導、助言を継続していく。	3年			